



いのちと平和と子どもたち

3月27日(日)

13:00開場

13:30開演

川口市教育研究所

(旧芝園小体育館)

おまちしています



こゝやととろね

2022.3.16

号 外

川口ぞうれっしゃ合唱団

「春にはきっと…」という願いも虚しく、またコロナ禍の春がめぐってきました。ウィルスは巧みに型を変えながら、すでに第6波さらには第7波の影もちらつき、私たちから活力を奪い続けています。制約だらけの学校生活、会いに行けない家族、引き籠もる高齢者、人はマスクをしているものと思って育つ幼子たちが切ない。

蔓延防止重点措置が延び延びになる中、3月27日のお楽しみ会をどうすべきか話し合いました。やっぱり、どうしても、少しでも、みんなで元気になりたい!!十分に感染対策をして、ワイワイ楽しむワークショップやぞうれっしゃを歌うことは諦めて、荒馬座さんのパワフルな舞台に全集中で日々の憂さを晴らしていただこうと思います。かけ声の代わりに、手拍子足拍子で参加してくださいね。

「よもやよもやだ!柱として不甲斐なし!穴があったら入りたい!」昨年大ヒットした『鬼滅の刃』の炎柱煉獄杏寿郎が夢から覚めて放ったこの台詞は、半死半生語だった「よもや」を流行語の域に引き上げました。

今、「よもやあるまい」と誰もが思っていた事態が次々とおこり、悪い夢を見せられているようです。世界が一丸となって未曾有の感染症に立ち向かわなくてはならない、この時に「よもや」、オリンピックという平和の祭典の最中に「よもや」、原発への爆撃は核兵器を使うことに等しいのに「よもや」。まして、核兵器の先制使用をちらつかせるなど「よもやよもやだ!」

昔、月刊『りぼん』に連載されていた長編バレエ漫画『アラベスク』をご記憶の方もいらっしゃるでしょうか。キエフの小さなバレエ学校にいたノンナ・ペトロワという少女が、未完の才能を見いだされ、レニングラード(現サンクトペテルブルク)のバレエ団で、悩みもがきながらプリマバレリーナへと成長していく物語です。その美しい故郷が、子どもたちの夢が、かつて同胞だった軍隊に蹂躪される様が日々報道されています。防空壕で震える少女の涙が、リアリティーを持って心に刺さります。

よもやの事態に己の不覚を恥じた煉獄さんは、命を賭して鬼と戦い、一人の死者も出さずに柱としての責務をまっとう。原作ファンだけではなく多くの人々の胸を熱くしました。かたや現実の世界では、核兵器の共有についての「議論をタブー視してはならない」という元首相のよもやの発言が、人々の背筋を凍らせています。

私たちは、「ぞうれっしゃよ走れ」と歌い続けながら、決して再び『ぞうれっしゃ』が走ることがないようにと祈り続けてきました。今は声に出して歌うことができなくても、みんな、その思いは同じです。

77年前の3月10日の東京大空襲では、10万もの人が焼け死に、東京は焦土となりましたが、今、核兵器が使われたなら、世界は壊滅するでしょう。もはや『ぞうれっしゃ』を走らせることすら叶わないことになります。

千葉県市原市の動物園『市原ぞうの国』では、ゾウが鼻で筆を持って絵を描くショーが人気ですが、ゾウが描いた絵の売り上げの一部を、ウクライナの動物園に取り残されている動物の保護救出活動のために寄付する支援を始めました。

この他にも募金を行い、100円以上募金した来園者には、アジアゾウの『ゆめ花』画伯(右の写真)が描いた、ウクライナの国花ヒマワリの絵が印刷されたポストカードをプレゼントするそうです。

